長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１６６

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和６年３月２１日(木)

卒業前【独り言】

「不易と流行」、もともと俳句の世界の言葉だそうだ。俳諧は新しみをもって生命とするから、常にその新しみを求めて変化を重ねていく流行性こそ俳諧の不易の本質であり、不易は俳諧の価値の永遠性、流行はその実践における不断の変貌を意味するらしい。

私達も不易と流行を重要視している。昔から変わらないものと時代に沿った新しい価値や変貌、そこに柔軟に対心することこそが教師の専門性だからだ。これまでにも書いたことがあるが、現在の教師の捉え方は、「教師＝学びの支援者」に傾いている。しかし、この考え方は松尾芭蕉の活躍した時代にもあったのである。また、「教学相長」という言葉があるが、これは、人に教えることと師から学ぶことは相補い合うもので、両方を経験してはじめて学業も向上するという解釈がなされている。これは教師＝教える、子ども＝学ぶ、と一律には捉えていない。教師側の意識改革のためにもこの様に捉えたい。「教えることによって教え方を学ばせて頂いている。」のだと。私もこれまで授業を何度となく失敗してきた。失敗の度に次は見ていろ！と闘志を燃やしたものだ。この気持ちが持てないなら、教師としては如何なものか。子ども達や保護者から学ぶ教師でありたい。

「好きこそ物の…」

誰でも好きでやっていることは一生懸命になり、勉強したり工夫したりするので、上達も早い。私も書道を嗜むため、感覚的に理解できる。芸事は、無理して嫌だと思いながらやっても、成長はないということだ。趣味などはこれがピッタリと当てはまる。私は「写真」や「模型作り」が好きだが、書道以外は誰かに師事したということはない。すべて独学だ。でも、それなりにできるようになった。情報源は本がメインだった。就職してからはインターネットで情報収集することがメインだが、それでも多くの活字情報から必要な物を得ることが多い。

さて、タイトルの諺を学習に当てはめてみる。好きになれば上手になる訳で、勉強を好きになれば成果が上がるということである。しかし、現実にはなかなか上手くいかない。私達教師は子供達に学びの楽しさを感じさせるために多くの工夫をしてきた。そして現在、主体的、協働的な学習を進めている。私達が、扱う教材について深く理解し、子供達にどんな力を身に付けさせたいのかをハッキリさせ、学習に対する成就感を味わわせることを目指している。

私、学びの喜びを感じ始めたのは最近のような気もする。色々な世界で色々な経験をさせることが大事なのだ。

【雑感】至誠

「至誠」吉田松陰もこの言葉を愛したと言われる。意味は「こちらがこの上もない誠の心」であり、これを尽くしても、感動しなかったという人にはいまだあったためしがない。」となっています。

さて、私達は普段の生活の中で「誠を尽くす」ことはできているでしょうか。孟子の言葉はこう解釈できます。

そんな視点で卒業式は行われました。卒業式は学校の中で最大のイベントであり、最大の学習発表の場です。保護者の皆様に「6年間でこんなに成長することができました。」ということを見て頂く、大切な学習の場です。我々もその視点で指導して参りました。

「至誠にして動かざる者は、未だこれ有らざるなり」という考え方は重要なことです。「至誠」という視点で生活を送っていれば、必ず自分に対して起こることは「至誠」がベースにあり、人の温かさや真心が感じられ、豊かな生活を送ることができます。

シリーズ「自分を語る」#166

翌朝、検温では37．2度。どうしても休めない状況があり、職場へ行きました。昨夜の高熱は一体何だったのだろうとボーっとした頭の中で考えながら原因を考えてみました。昨日の朝からずっと下腹部に違和感があり、午前中数回トイレに行ったこと。悪寒がして3時間足らずで熱が上がり切ったこと、そして解熱剤がすぐに効いたこと。下腹部…、ひょっとすると膀胱や前立腺の異常？　そんなことを考えながら客観視し、午後、かかりつけの胃腸科内科を受診することにしました。

病院にて。診察で昨日から下腹部の違和感がある事、熱が急激に上がったこと等をお医者様に伝え、採血検査、エコー検査と進んでいきました。結果説明にて。「澤田さん、これは大腸憩室炎ですね。炎症の数値も高いし、エコーの所見も憩室炎です。しばらく絶食してください。少なくとも3日ね。」原因が分かりホッとしたものの、絶食。これは辛かったです。この日は遅い時間の受診だったため抗生剤の内服、翌日から抗生剤の点滴を開始することになりました。職場へ迷惑をかけるが、自分が倒れる訳にはいかないと自分に言い聞かせ、暫くの間朝夕2回の点滴に行かせて頂きました。

そもそも、この「大腸憩室炎」とは一体どんな病気なのか。大腸憩室とは、大腸の管の外側に向かって風船のように飛び出した大腸の壁の一部分だそうです。大腸憩室炎は、この大腸憩室で炎症が起きている状態をいう。大腸憩室があるだけでは特に症状は出ませんが、便が憩室に入り込んだりすることがきっかけとなり、大腸憩室の中で細菌が繁殖して、炎症を引き起こすらしいのです。

話を元に戻します。26日（土）発症5日目。真面目に絶食に取り組み、血液検査2回目。点滴を受けた後、お医者様からの説明を受けて…、少々凹むこととなりました。炎症を表す数値があまり改善されていなかったからです。しかし、絶食4日目だったこともあり、お医者様から食事の許可が出ました。「少量のおかゆをゆっくり食べるように。」　ため息しか出ませんでしたね。病院がお休みで点滴ができない日は、抗生剤の内服でした。効いているのかいないのか不安になりながら土日を過ごし、新しい週が始まりました。火曜日の朝、3回目の血液検査。炎症反応の数値が下がってきていました。まだ高い数値ではあるものの、今後は内服で様子を見ていくとのことでした。

今後1か月、食事の制限を伴う生活が続きます。今回の病気で「寄る年波」と「食の大切さ」を痛感しましたね。当たり前のように、炭水化物、脂質、糖分、アルコールを摂っていましたが、それは自身の体にかなりの負担をかけていることに他なりません。神様が私に「調子に乗るなよ！」と諭してくれたのではないかと感じる場面でした。それにしても食事制限は辛いものがありました。食べられることに感謝です。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）